

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月20日現在

機関番号：32506

研究種目：基盤研究C

研究期間：2009～2011

課題番号：21510268

研究課題名（和文） 中国新疆に於けるウイグル人の反政府運動と在外組織との関連性についての研究

研究課題名（英文） A Study of anti-government activities of Uyghurs in Xinjiang province of PRC and its "relationship" with foreign organizations

研究代表者 水谷 尚子 (Mizutani Naoko) 麗澤大学外国語学部 非常勤講師

研究者番号：80468397

研究成果の概要（和文）：（1）1950～70年代の在外ウイグル人亡命者に関する公文書調査の結果は、以下の通り。中国共産党との内戦に敗れ台湾に渡った中華民国政府は、①国連へ新疆を脱出したウイグル人亡命者保護を強く要請し、自らも相当な経済的援助を行っていた ②ウイグル人在外亡命者組織と中華民国政府は「反共」（反中国共産党）というイデオロギー的結束で、1960年代までは深い繋がりを維持していた ③蒋介石の死後、特に中華人民共和国が改革開放に舵を取ってからは、両者の往来が消失する、等、これまで知られていない中国国民党とウイグル人亡命者の結びつきが、台湾に於ける文献調査により明らかとなった。（2）中央アジアでの現地調査の成果は、以下の通り。①「カザフスタンのウイグル人」については既に幾つかの先行研究が存在するが、「キルギス共和国のウイグル人～そのコミュニティ、民族組織、ウイグル語メディア等～」について言及する論考は存在しなかった。本研究によって、キルギスのウイグル人社会の全容が明らかとなった。②「東トルキスタン共和国」時代に政府中枢に比較的近い部署にいて、その後、中央アジアに移住し、民族組織に関わってきた人々にインタビューすることができた。とりわけ、「東トルキスタン共和国」時代に政府公報に勤務し、漢語文献の翻訳やメディア工作に従事したムニール・イェルズィン氏へのインタビュー記録は、他に類例のない貴重なものである。

研究成果の概要（英文）： The author of this essay conducted a study of related official documents of ROC, Taiwan, to find formerly unknown facts and reach unprecedented conclusions as follows:

- 1) The government of ROC, self-exiled in Taiwan since 1949, had repeatedly issue strong requests to UN to provide an assistance to Uyghurs fleeing PRC and protect them, while extending a remarkable financial support to those people;
- 2) The government of ROC and the overseas organizations of defective Uyghurs had maintained close relationship with each other;
- 3) However, this relationship dissapeared after Chang Kai-shek died, and the tide has been accelerated since the economic reform began in mainland China since late 1970s.

The author had also conducted a similar study in Central Asian region. The results are the following;

1) There has been no related study about “the Uyghur minority in the Kyrgyz Republic: its community, social structure as an ethnicity, and their media in their native language, etc.”, as are several precedents on “the Uyghur in Kazakhstan”. The autor is pleased to say here that this study is the first one which cast a spotlight on the uyghurs there and their society to fully illuminate;

2) The author could have chances to take interviews of several key persons of the failed “East Turkestan Republic”, who migrated to neighboring Central Asian countries to keep committed to their ethnic movement in some organizations. Among others, from the poin tof the author, the recorded interview with Munir Yerzin proves to be so unique and precious for the concerned scholars. Mr. Yerzin is a witness of the second East Turkestan Republic, as he used to work at the government's public PR bureau as a translator of Mandarin and in media as a journalist.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
総計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：ウイグル 新疆 中国 亡命者 少数民族 東トルキスタン

1. 研究開始当初の背景：中国新疆と境外におけるウイグル人の反中国政府運動史や、「東トルキスタン」独立運動の実相を明らかにするには、これまでの研究成果～所謂中国「体制側」の主張（馬大正『「東突厥斯坦国」迷夢的幻滅』・李琪『「東突」分裂主義勢力研究』等）や、ウイグル人民族主義者側の主張（拙著『中国を追われたウイグル人－亡命者が語る政治弾圧』）～だけでは本質は見えてこない。世界各国に散らばる亡命ウイグル人と移民ウイグル人の主要な民族組織が、それぞれどのような政治活動を行なっているのか、またメンバーはどのような背景（経歴）を持った人物なのかといった点について実地調査をするとともに、組織刊行物を収集して彼らの思想や主張・行動を分析し、さらに中華民国の公文書や中華人民共和国政府の

諸文献も読み込み、中国政府側の方針（政策や「国益」）と付き合わせることで、新たな学術的知見を提示したいと思った。

2. 研究の目的：本研究の目的は、「中国の少数民族」であり、テュルク系ムスリムであるウイグル人の政治活動に焦点を当て、中華人民共和国建国（1949年）から現在に至るまで新疆ウイグル自治区で発生した反政府運動と、境外に亡命・移民したウイグル人により結成された在外組織との間に、運動面や人的側面において如何なる繋がりが存在しているのか、その関連性を解明することにある。近年の新疆内部における民族運動の展開と、境外ウイグル人組織の活動との間に繋がりが有るのか無いのか、あるとすればそれはどのような実相を示しているのかという問

題について、歴史的観点も踏まえつつ体系的に整理していくことを目的とする。

3. 研究の方法：1949年中国共産党が中華人民共和国を建国し、新疆を実効支配するようになると、少なからぬウイグル人が旧ソ連中央アジアやパキスタン、アフガニスタン、トルコ、サウジアラビア等に移住や政治亡命した。現在の「イスラームによる結束」を謳う政治組織を除いた、その他のウイグル人在外民族組織は、歴史を辿ると、①1950年代にインドを経てトルコやサウジアラビアに政治亡命した中華民国官僚や資本家ら ②1950～60年代に旧ソ連へ経済移民・政治亡命をした旧「東トルキスタン共和国」関係者の二派に大別できる。本研究では、中国と国境を接する～或いは地域的に非常に近い中央アジア三国（カザフスタンとキルギス共和国、さらにウズベキスタン）について、ウイグル人組織やコミュニティ、民族運動組織やウイグル語メディアについてフィールドワークを行った。

中央アジアでは、亡命者自らが記した回想録や口述を収集し、現地調査（フィールドワーク）を行ったが、旧ソ連の公文書へのアクセスはできなかった。そこで中国関連の公文書へのアクセスを試みたところ、1950年代に、中華人民共和国からウイグル人が大勢政治亡命していく際、大陸から台湾に追われた中華民国政府（国府側）が、国際機関の援助を得て、ウイグル人の亡命や移住に対して経済的にも政治的にも力を貸していたことがわかり、またそれを証明する史料が台湾に存在すると判明したため、台北を訪れるに至った。台北南港にある中央研究院近代史研究所档案馆では「中華民国外交部文書」を、新店及び台北市内にある国史館では「中華民国国民政府文書」や個人档案などを閲覧し、中華

民国政府がウイグル人亡命者問題にどう関与していたかを記す文書を収集した。

4. 研究成果：（1）公文書調査の成果は以下の通り。中国共産党との内戦に敗れ台湾に渡った中華民国政府は、①国連へウイグル人亡命者保護を強く要請し、新疆脱出後の亡命者に対し、自らも相当な経済的援助を行っていたこと、②ウイグル人在外亡命者組織と中華民国政府は「反共」（反中国共産党）というイデオロギー的結束で、1960年代までは深い繋がりを維持していたこと、③蒋介石の死後、特に中華人民共和国が改革開放に舵を取ってからは、両者には往来が消失すること等、これまで知られていない中国国民党とウイグル人亡命者の結びつきが台湾に於ける文献調査の結果、明らかとなった。（2）中央アジアでのフィールドワークの成果は以下の通り。①「カザフスタンのウイグル人」については既に幾つかの先行研究が存在するが、「キルギス共和国のウイグル人～そのコミュニティ、民族組織、ウイグル語メディア等～」については言及する論考は存在しなかった。本研究によって、キルギスのウイグル人社会の全容が、ほぼ明らかとなった。②「東トルキスタン共和国」時代に政府中枢に比較的近い部署にいて、その後、中央アジアに移住し、民族組織に関わってきた人々にインタビューすることができた。とりわけ、「東トルキスタン共和国」時代に政府公報に勤務し、漢語文献の翻訳やメディア工作に従事したムニール・イェルズィン氏へのインタビュー記録は、他に類例のない貴重なものである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- ①水谷尚子『『革命的東トルキスタン』紙の
タタール人記者 ムニール・イブラギモヴィ
チ・イェルズィン回想録』 『社会システム
研究』第24号 2012年 181-222頁
- ②（出版予定）水谷尚子「キルギス共和国の
ウイグル人」 『麗澤大学紀要』第94号
2012年7月

〔学会発表〕（計7件）

- ①水谷尚子「1990年代中国南新疆に於ける
ウイグル人の反政府運動について」 現代中
国研究会 2010年5月15日 於社団法人中
国研究所
- ②水谷尚子「現代中国の少数民族問題と社会
安定」 立命館大学経済学会 2010年5月
22日 於立命館大学びわこキャンパス
- ③水谷尚子「在外ウイグル人への口述史収集
をめぐる諸問題～中国新疆からの政治亡命
者・経済移民者を訪ねて」 日本オーラル・
ヒストリー学会 2011年9月11日 於松山
大学
- ④水谷尚子「1950～70年代中華民国在台湾
政府は新疆からの国外亡命者にどう対処し
たか～中華民国外交文書から読み解く」 中
国ムスリム研究会 2011年12月18日 於
早稲田大学
- ⑤水谷尚子「3・11以後の日本から中国を
語る」 神奈川大学中国語学科主催シンポジ
ウム 2012年2月10日 於神奈川大学
- ⑥水谷尚子『『新疆バレン郷事件』考』 中
国現代史研究会 2012年3月18日 於ホテ
ルクライトン新大阪
- ⑦水谷尚子「キルギス共和国のウイグル人」
日本中央アジア学会まつぎワークショップ
2012年3月31日 於伊豆松崎商工会議
所会議室

〔図書〕（計2件）

- ①水谷尚子（監修）『ウイグルの母 ラビ
ア・カーディル自伝』 ランダムハウス講談
社 2009年 全503頁
- ②（出版予定）毛里和子編『中華人民共和國
と少数民族－「周縁」からみた国民統合の過
去・現在・未来』（勉誠出版 2013年7月予定）
より 水谷尚子「中華人民共和国の成立とウ
イグル人政治難民」

〔その他〕

ホ ー ム ペ ー ジ 等
[http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/ssrc/s
ocial/kiyou/kiyou24/24-10.pdf](http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/ssrc/social/kiyou/kiyou24/24-10.pdf)

6. 研究組織

(1)研究代表者 水谷 尚子

(MIZUTANI NAOKO)

麗澤大学外国語学部非常勤講師

研究者番号：80468397